

【作成要領】

学校名 南城市立馬天小学校	連絡先 TEL : 098-947-6535 Eメール : basho-kyoutou@edu.city.nanjo.okinawa.jp
-------------------------	--

1 実践事項

タイトル：「 〈チーム馬天〉 で取り組む学力向上 」

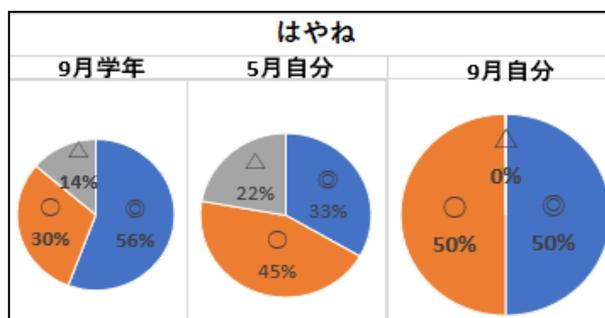
2 実践内容

- (1) 生活リズムの確立に向けた取り組み「生活リズムチェック」
- (2) カリキュラムマネジメントを意識した年間ポートフォリオの作成
- (3) 校内研と連動した授業の質的改善の取り組み
- (4) 自主的な家庭学習(自主学習)の推進(今後はタブレットドリルを活用した取り組みを実践予定)

3 説明資料 (写真、グラフ、図、表など)

(1) 生活リズムの確立に向けた取り組み

「早寝・早起き・朝ごはん・家庭学習」の基本的な生活リズムの確立に向けて、個人で目標を立て、それが達成できるように取り組んだ。今年度は個人のタブレットを活用し、結果を視覚化できるようにした。そうすることで1学期と2学期の自身の変容を比較することができ、振り返りの材料にもなった。それを個人面談や学級保護者会などで保護者と情報を共有することで、家庭での生活リズムの確立に向けて意識付けをすることができた。



生活リズムチェックの取り組みの一例

(2) カリキュラムマネジメントを意識した年間ポートフォリオの作成

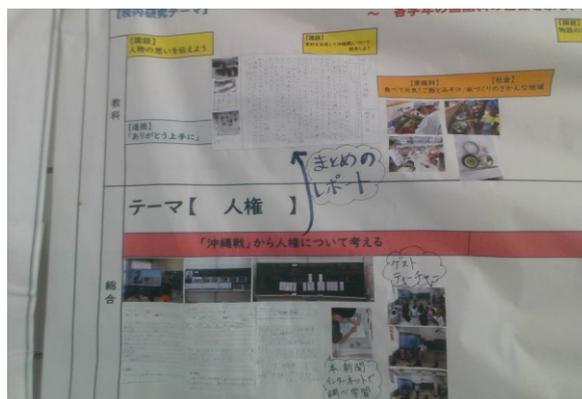
学期毎の行事や学習活動を1枚の紙に視覚的にまとめることで、年間の学習内容を横断的に分かりやすく把握することができた。又、教科横断的な視点で学習内容を組み立てて実践することで、質的な学びの向上を図り、学期毎に取り組む内容について情報交換を行うとともに、成果と課題を見い出しながら進めた。学習内容や行事においては、地域の方や関係団体を講師に招いて学習を行った。

※講師一例…地域人材→「シーサーづくり(図工)」「空手指導(運動会)」など

関係団体→「ハンセン病啓発講話」「人権教育・数名の講師」「移民学習」など



カリキュラム一覧(全学年で作成)



総合での学びを他教科にも活用(教科横断的な視点)

(3) 校内研と連動した授業の質的改善の取り組み

学力向上の取り組みと、校内研の取り組みを連動させ、国語科を中心に「児童の表現する力を高める授業づくり」を念頭に、主体的で対話的、深い学びが展開できるよう各学年で研究を行っている。また、「一人一授業」「低中高の代表授業」など、他学年の授業を参観し意見交換することを通して、授業の質的改善の取り組みを行っている。



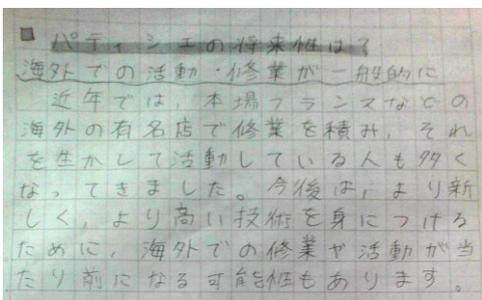
児童の表現する力を高める授業づくりの研究(代表授業の様子)



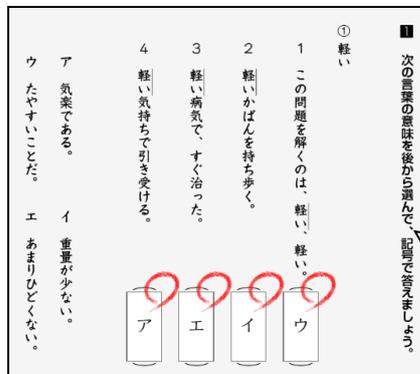
授業参観後の意見交換会

(4) 自主的な家庭学習の推進

宿題と家庭学習を区別し、教師から与えられた課題のみに取り組むのではなく、児童が自分に必要な学習や、興味ある分野について自ら考え取り組む家庭学習を推進（高学年では「未来ノート」と名付けている）。取り組む量などは、学年の実態に応じて臨機応変に対応している。また、今後はタブレットドリルも活用し、既習学年の振り返りや苦手な内容の復習など、個人に適した効果的な学習方法の構築を目指し取り組んでいく。



興味のある分野についての学習
「パティシエの将来性」



タブレットドリルの一場面(国語)

タブレットドリルの
メリット

- ① ペーパーレス
- ② 自動採点
- ③ 学習履歴が残る
- ④ 落ち込み箇所の把握
- ⑤ 既習学年の復習
- ⑥ 個人の実態に応じた学習内容の精選など

■ 次の言葉の意味を後から選んで、記号で答えましょう。

4 成果

- 学力向上と、校内研の取り組みを連動させ、「児童の表現する力を高める授業づくり」について、学級や学年、学校全体で情報交換を行い、授業の質的改善の取り組みを行うことができた。
- カリキュラムマネジメントを教科横断的な視点で組み立て、年間のポートフォリオのように、分かりやすく可視化することで、年間の学習活動が把握しやすく、次年度の計画をたてる上でも有効な資料作りが出来た。

5 課題

- 自主的な家庭学習の推進は、昨年度から継続的に実施しているが、個人に適した学習内容の精選や担任の見取りなどにおいて、課題や負担が感じられる。今後はタブレットドリルの活用などを通して、個にあった効果的な自学自習の工夫や実践に取り組んでいきたい。